

平成24年度 第4回東浦町文化財保護審議会 会議録

日 時：平成25年2月14日（木） 午前10時から午前11時15分

場 所：東浦町郷土資料館 講座室

出席者：石原弘幸・河合美三男・前埜尚子・伊藤岱二・高部淑子・鬼頭秀明

事務局：稲葉教育長・大崎教育部長・長坂生涯学習課長・飯田課長補佐兼文化財係長・楠生涯学習課主査

欠席者：福岡猛志

傍聴者：なし

1 あいさつ

会 長

- ・1月に実施された文化財消防訓練では、地域の人々と一緒に消防訓練を行い、消火器や消火栓の取り扱い訓練もあり、防火意識の向上につながったと思う。

教育長

- ・資料館では現在、愛知県内の博物館・資料館をめぐるひなまつりスタンプラリーを開催中である。多くの人々に足を運んでもらえる資料館、住民の方々に喜んでもらえる資料館としていきたい。

2 報告事項

(1) 平成25年度郷土資料館事業計画について（資料No.1）

事務局：資料1により平成25年度の事業計画を報告。

〔質疑・意見交換〕

委 員：講座教室の中にある歴史講座の内容は。また、例年6月の時期であったか。

事務局：今回は、知多の酒の歴史についてのテーマで行う予定である。開催時期については、他の講座教室との調整もあり、年によって異なっている。

会 長：講座教室の中で、水野氏講座は毎年人気が高く、すぐ35人の定員に達してしまう。定員を増やすことはできないか。

事務局：緒川城主であった水野氏の歴史に関する講座を開催することにより、資料館を知ってもらうこと、資料館へ足を運んでもらうことも当初の目的であった。人気が定着してきているのであれば、会場の広い文化センターなどでも開催は可能であるので、臨機応変に対応していきたい。

委 員：東浦町の資料館は企画展や講座教室など、定期的にいろいろな事業を

実施している点がよいところであるが、淡々と事業をこなしているように感じられる。人を呼ぶためには、マスコミなどにも飛びついてもらえるような話題性があることを行うことが大事である。講座教室の内容に合わせた展示や話題性のあるイベントなど、興味をもってもらえるようなことを取り入れて考えてみたらどうか。

委員：うのはな館友の会の会員数が減った理由は何か。

事務局：東浦ふるさとガイド協会が設立され、友の会の活動よりふるさとガイドの活動に移行してしまった面もあるかもしれないが、事務局による友の会活動の説明・PR不足が大きいと思われる。今後は、古代の塩作り体験教室などの教室のお手伝いや展示の宣伝のお手伝いなど活動内容をはっきりさせ、合わせて、資料館で活動している陶芸団体にも声をかけて会員の増加を図り、資料館を応援してくれる人々を増やしていきたい。

3 意見・情報交換

(1) 相生の松について

事務局：道路改良のため移転しなければならないが、地元では移転反対という意見もある。町の道路事業であるので計画は了承していく予定であるが、指定文化財にはなっていない物件について、教育委員会としてどう結論をだしたらよいか、意見をうかがいたい。

〔質疑・意見交換〕

委員：初代のものならば移してしまうのは問題があると思うが、相生の松は緒川の集落と緒川新田の集落の途中にあった目印の松といういわれのものであるので、多少位置が変わっても、移す場所があるならば移転してもよいのではないかと思われる。移してでも残すことが大事だと思う。

(2) 村木砦の調査研究について

事務局：村木砦についての歴史をまとめた本を出版してはどうかという意見が、町議会の質問であった。新たに出版するためには研究や検証が必要であるので、委員会（研究会）を立ち上げて、平成25年度より進める予定である。まずは、資料調査より始める予定であるので、情報提供や協力をお願いしたい。

〔質疑・意見交換〕

委員：戦国時代の研究は進んでいるので、専門の研究者に加わってもらう必要がある。あの場所になぜ砦が築かれたかという意味付けをしていく

ことが重要。また、調査研究成果を広く知ってもらえるよう、講演会や講座などの開催も見据えて、講師をお願いできるような方を選ぶとよい。

(3) 文化財保護審議会について

事務局：現在、視察研修を含めて年4回開催しているが、議題がなければ開催回数を減らしてもよいか、意見をうかがいたい。

〔質疑・意見交換〕

委員：議題など何も無いときにはわざわざ開催する必要もないと思われる。

事務局：それでは、今後は視察研修を含めて最低3回は開催するが、議題がない場合は開催しないこととする。